

# 第 1 部

## 教育委員会点検・評価

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 点検・評価対象事業一覧

事業コード	事業名	担当課
154	教育指導事務事業 (学習指導員による補習事業)	教育指導課
225	幼稚園・保育所・小学校・中学校・ 特別支援学校連携推進事業	教育指導課
333	学校施設環境整備事業 (空調設備整備)	学校施設課
425	障がい者・高齢者への宅配サービス事業	総合市民図書館
428	新しい時代に即した「これからの 図書館」推進事業	総合市民図書館
529	(仮称)藤澤浮世絵館の整備・運営 事業(藤澤浮世絵館の運営事業)	郷土歴史課
721	地産地消の充実事業	学校給食課

2 平成28年度 教育委員会点検・評価報告書

事業コード 154	事業名 教育指導事務事業 (学習指導員による補習授業)	担当部 教育部	担当課 教育指導課		
事業目的 学校が抱える諸課題について、支援を図り、学校とともに諸課題の解決を図る。		変更(ある場合)			
事業内容 生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図るため、「学習指導員」による補習授業を行う。					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	実施				
予算額(千円)	3,211	3,211	3,211		
決算額(千円)	2,927	2,779			
執行率(%)	91.2	86.5			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	・中学校全19校で実施 ・総時間数、2,698時間		H28年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果) 各学校が、子どもたちのニーズに合わせ、放課後や長期休業を利用して学習支援をすることができた。個別や少人数での指導をすることで、生徒の学習意欲へとつなげることができた。			評価の理由 ・年次計画どおり全校で実施することができた。生徒の基礎学力の定着の面で成果をあげている。		
			今後の方向 ・各学校の状況にあわせ、柔軟に対応しながら、生徒の基礎学力の確実な定着につなげていきたい。		
			H29年度事業計画 ・学習指導員の選任(学校長) ・学習指導員による放課後、長期休業中の学習支援		
課題・問題点 ・年間を通して計画的な支援ができるように、学習指導員を確保する。 ・学習会について生徒に周知し、希望する生徒が参加できるように運営する。			平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について 平成29年度も生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図るため、中学校が放課後及び長期休業中に実施する補習指導に対し、支援を行っていく。実施にあたっては、開講科目を増加してほしい、あるいは定期試験前の開講を増やしてほしいといった生徒のニーズに応じた対応ができるよう学校に指導助言していく。		

事業コード 225	事業名 幼稚園・保育所・小学校・中学校・特別支援学校連携推進事業	担当部 教育部・子ども青少年部	担当課 教育指導課・保育課		
事業目的 ・園児等が小学校の様子を知ることにより、就学後、児童の学校生活がスムーズに行える。(小1プロブレムの解消) ・中1ギャップの解消と、義務教育9年間を見通した教育を推進する。		変更(ある場合)			
事業内容 ・幼稚園・保育所・小・中・特別支援学校の関係者、学識経験者等からなる「幼・保・小・中連携推進協議会」を設置し、幼児教育と小・特別支援学校や小学校と中・特別支援学校の教育の充実及び連携の推進を図るため、協議・研修・交流を行う。 ・就学前の園児等の小学校訪問及び小学校児童と中学校生徒の交流の推進など、校種間の連携を図る。 ・校種間教職員の意見交換を積極的に行う。 ・小中一貫教育の実現の可能性等について研究するとともに連携の推進を図る。					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	幼保小連携実施校46校、小中連携実施校55校との連携の推進				
実施					
予算額(千円)	30	30	30		
決算額(千円)	0	0			
執行率(%)	0.0	0.0			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	幼保小連携46校、小中特連携55校で実施		H28年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校連携担当者会を開催した。小中学校担当者54名と白浜養護学校担当者1名、幼稚園・保育所の担当者53名が出席し、連携にかかる実践の紹介や情報交換を行った。 ・幼、保、小、中、特別支援学校の職員を対象に合同研修会を行い、連携の必要性や課題、具体的な実践等についての講演を聞き理解を深めた。また、地域協力者会議の代表の方々を招き、地域・家庭・学校の連携活動を紹介した。 ・中学校学区を中心とした近隣の学校や園の間で、年間計画を基に交流、学校見学などについて調整し、交流を実施した。地域の学校や園の教員が協力し合う素地ができた。 ・また、各学校間の情報交換により、支援を必要とする児童生徒に、きめ細かい支援が継続できるようになった。 ・各校からの異校種間交流の実践報告を受け、それらをまとめた冊子「平成28年度幼保小中特連携実践事例集」を作成した。今まで見られなかった新しい試みや、交流の深まりや広がりが報告された。		評価の理由 ・幼保小中特連携についての必要性や効果についてはだいぶ理解が深まり、幼稚園・保育所と小学校、小学校と中学校の連携については全校で実施されている。実施内容は職員間の情報交換や幼児と児童生徒の交流が行われた。			
		今後の方向 ・幼保小中特の教員が「義務教育を終える段階で身に付けておくべきことは何か」という観点を共有しながら、幼児教育、小学校教育、中学校教育それぞれの在り方を考える視点や意識をもつことが、より一層必要である。幼児教育を基礎として、小中学校9年間を見通して、どのように子どもたちの資質や能力を伸ばしていくのかを考えると、子どもたち一人ひとりの個々の発達段階や教育的ニーズを踏まえた実践を推進していく。			
課題・問題点 ・私立保育所や私立幼稚園へ担当者会の開催連絡をする際の連絡手段に課題があり、私立幼稚園の参加が少ないこと。 ・幼稚園にも「実践事例集」の原稿執筆を依頼しているが、回収方法に一考を要する。 ・行事の交流や教職員の情報交換などが中心であるため、連続的な学びという視点で教育活動や指導に生かすところまでには至っていない。		H29年度事業計画 ・幼保小中特別支援学校間の連携を推進し、校種間の円滑な接続及び幼児期の教育を基礎として、義務教育9年間を見通した教育の推進を図る。 ・活動の実践事例集の活用を図り、教育連携の実践に役立てる。			
		平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について 年間2回の担当者会を行う。1回目は5月に近隣校の担当者間の顔合わせや昨年度の連携の照会を行い、2回目は8月に他市の担当者を講師に、学びの連続性や教育課程を意識した幼小中連携の実践事例紹介等を行う予定。H29年度第1回の幼保参加は昨年比微増となったが、新規に開設された保育所等も含め私立幼稚園等の参加について園長会等で促していく。 本事業に関連して「教育課程推進事業」において、小学校と中学校の連携について今年度は小中学校4校(秋葉台小と秋葉台中、大清水小と大清水中)が学校運営等にかかる研究・実践に取り組んでいる。			

事業コード 333	事業名 学校施設環境整備事業 (空調設備整備)	担当部 教育部	担当課 学校施設課		
事業目的 環境整備工事を計画的に進め、児童・生徒の教育環境の向上を図るとともに、学校間格差の解消を図る。		変更(ある場合) 平成29年度以降の計画(校数)を変更した。 (H29)			
事業内容 学校生活、学習環境の向上を図るため、小学校普通教室の空調設備設置及び小・中学校管理諸室、特別教室の空調設備更新を実施する。					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 小学校空調設備設置・更新	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	普通教室3校	普通教室6校	普通教室4校	普通教室7校 中学校空調設備更新 管理諸室4校	普通教室6校 管理諸室4校
予算額(千円)	368,190	216,260	406,372		
決算額(千円)	261,091	174,732			
執行率(%)	70.9	80.8			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	・小学校2校の設置を完了		H28年度の 総合評価	評価 D	次年度 継続
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・小学校2校の空調設備設置工事を実施 2校とも給食調理室含む * 新林小学校、天神小学校  平成28年度2月補正予算において、小学校4校の 改修工事予算を編成。 全額を平成29年度に明許繰越。			評価の理由 ・計画では6校の予定であったが、2校の実施となつたため。  今後の方向 ・設置、更新実施対象校について、特定財源の確保に努めながら、年次計画に基づき継続して実施していく。  H29年度事業計画 ・小学校4校の空調設備設置工事を実施(明許繰越分) * 浜見小学校 * 大庭小学校 * 湘南台小学校(給食調理室含む) * 駒寄小学校		
課題・問題点 ・国の交付金の状況も厳しいなかで、財源の確保が非常に困難になっている。国の補正予算編成状況等にも注視し財源の確保に努め、今回変更(延伸)した事業を計画どおり進めていくことを目指す。			平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について ・平成28年度に国の補正予算が組まれたことにより、本市では4校の空調整備事業が補助事業として採択されたことに伴い、平成28年度2月補正予算において予算化し、平成28年度予定していた対象校を今年度、整備実施する。 ・今後においても、安全・安心で快適な学校施設の整備に向けて、国の補助事業としての採択状況を注視し、特定財源の確保に努めながら、取組計画を着実に実施することを目指す。		

事業コード 425	事業名 障がい者・高齢者への宅配サービス事業	担当部 担当課	生涯学習部 総合市民図書館		
事業目的 図書館・図書室に来館・来室することが困難な障がい者や高齢者の図書館利用を可能にし、市民サービスの向上を図る。		変更(ある場合) *H29年度より、「年次ごとの取組計画」の宅配による貸出件数を変更。(H29)			
事業内容 図書館・図書室に来館・来室することが困難な障がい者や高齢者に対し、ボランティアにより図書館資料を宅配する。					
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	宅配による貸出件数 7,450件	7,600件	7,000件	7,000件	7,000件
予算額(千円)	673	673	673		
決算額(千円)	637	631			
執行率(%)	94.7	93.8			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	宅配による貸出件数 6,902件 / 年		H28年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・延べ利用者数 1,831人 ・貸出資料件数 6,902件 ・自動車でのボランティア活動に対応するボランティア保険加入手続きを行った。保険対象者 46人 ・広報ふじさわに宅配サービスの利用者及びボランティアの募集記事掲載を行った。 ・ボランティア交流会を開催した。11月17日(木) 参加者12名 ・職員とボランティアが協力して宅配利用者に資料の紹介をするためのリストを作成した。			評価の理由 ・ボランティア保険を活用することにより、ボランティアの活動範囲が広がり、待機ボランティアの解消につながった。 ・利用者一人あたりの貸出件数が増加している。		
			今後の方向 ・市内全域の利用希望者に対応できるよう、ボランティアの確保を図るとともにボランティアの育成をしていく。 ・今サービスを利用している利用者に対し、資料の紹介を行うことによりより多くの資料にふれられるようにしていく。		
			H29年度事業計画 ・ボランティアによる宅配サービスの実施 ・広報ふじさわ、館内ポスター掲示、図書館ホームページ等による事業のPR及びボランティアの募集 ・ボランティア交流会の開催		
課題・問題点 ・市内全域の利用希望者について受入及び対応可能とするためのボランティアの確保とマッチングが課題である。 ・利用希望者及びボランティア希望者によりわかりやすく事業を周知するためのPR方法を検討する必要がある。			平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について ・今後も引き続き関係機関と連携し、事業の周知に努め、宅配サービスを希望する利用者を受け入れるとともに、宅配サービスを行うボランティアの確保と育成に努めていく。 ・宅配サービス事業のPR方法について検討していく。		

事業コード 428	事業名 新しい時代に即した「これからの図書館」推進事業	担当部 生涯学習部	総合市民図書館		
事業目的 新しい時代に即した「これからの図書館」について考え、方針・計画等を策定し、実行することにより、更なる図書館サービスの充実を図る。		変更(ある場合)			
事業内容 ・新しい時代に即した「これからの図書館」のあり方について研究・検討し、今後の図書館の運営方針及び計画を策定する。 ・南市民図書館再整備にあたり、必要な機能・設備等について検討する。					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 方針・計画等の策定の検討	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	実施 南市民図書館再整備				
検討					
予算額(千円)	853	930	0		
決算額(千円)	764	810			
執行率(%)	89.6	87.1			
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	・新たな時代に即した「これからの図書館」のあり方、及び、文化ゾーン再整備の基本構想策定に向けた南市民図書館再整備の検討を進める。		H28年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果) ・新しい時代に即した「これからの図書館」を考えるため、学識経験者、市民等11名で構成する「これからの図書館検討委員会」を平成27年度に引き続き7回開催し、4市民図書館11市民図書室の役割と新たな機能、南市民図書館の再整備、図書館サービス、資料の収集・保存・整理、他団体との連携、施設・設備・機能について検討し、委員会として検討結果をまとめ、報告書を作成した。 ・検討委員会において先進図書館の視察を行った。 ・図書館・図書室利用者アンケート調査を実施した。		評価の理由 ・「これからの図書館検討委員会」において、今後の藤沢市図書館のあり方について検討し、報告書を作成した。			
		今後の方向 ・新しい時代に即した「これからの図書館」を考えるため、引き続き課内で、藤沢市図書館のあり方及び望まれる図書館サービスの実現に向けて検討していく。また、再整備の検討が必要な南市民図書館について、具体的に検討を行っていく。			
		H29年度事業計画 ・藤沢市図書館のあり方や、望まれる図書館サービスの実現に向けて、職員による検討会議を行う。 ・本市図書館に対するニーズや満足度等を把握するために、図書館協議会による利用者アンケートを実施する。			
		平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について 「これからの図書館検討委員会」で示されたものを参考に、今年度から職員による検討を開始し、持続可能な発展を目指しつつ藤沢らしい特色ある図書館を構築するため、今後の図書館サービスの向上に向けて基本的な方策を検討していく。			
課題・問題点 ・本市の「これからの図書館」に望まれる図書館サービスの実現に向けて、具体的な方策を検討する必要がある。					



事業コード 529	事業名 (仮称)藤澤浮世絵館の整備・運営事業 (藤澤浮世絵館の運営事業)	担当部 担当課	生涯学習部 郷土歴史課		
事業目的 これまで市が収集してきた浮世絵類を中心とした資料を市民を始め多くの人に見ていただく場を提供することにより、郷土の歴史・文化についての関心を喚起し、郷土愛あふれる藤沢の実現に資する。		変更(ある場合)			
事業内容 市民が集い文化の継承に繋がる生涯学習の場として、浮世絵類の展示を中心とした(仮称)藤澤浮世絵館を整備する。 ・東海道、藤沢宿、江の島など所蔵する浮世絵の特色を活かした展示 ・市民等が気軽に訪れ、学び、憩えるスペースの設置 ・地図や写真などのビジュアル資料も駆使した地域の歴史の紹介					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 H31年度 (仮称)藤澤浮世絵館の整備・運営	➔			
	設置工事	開館 利用者数 10,000人	20,000人	20,500人	21,000人
	予算額(千円)	168,000	62,866	60,787	
	決算額(千円)	160,651	59,828		
	執行率(%)	95.6	95.1		
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	7/16に開館し、来館者数は約32,000人	H28年度の 総合評価	評価 A	次年度 継続	
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果)		評価の理由			
< 運営体制 > ・非常勤職員4名、臨時職員2名を採用した。 ・藤澤浮世絵館運営委員会を2回開催した。 < 開館記念式典・講演会 > ・7月16日に開館記念式典を実施し開館した。 ・7月23日、10月9日に開館記念講演を開催した。 < 展示・ワークショップ等事業 > ・7月16日～12月4日「開館記念展～絵師たちに愛され藤沢 北斎・歌麿・広重・国貞」3期に分けて開催した。 ・12月9日～1月22日「おもしろ東海道と浮世絵双六勢ぞろい」展を開催した。 ・1月27日～3月5日「浮世絵でめぐる旅と物語」展を開催した。 ・3月10日～4月16日「文明開化 変わりゆく浮世絵の景色たち」展とし、「GAS MUSEUMがす資料館」からの借用資料を交え開催した。 ・各展示期間中にワークショップ等事業を開催した。 < 連携事業 > ・地域、観光イベントに浮世絵すり体験のブースを出展した。 ・藤澤浮世絵館・アトスペースにおいて、市内小学校が見学及び体験学習を実施した。		・来館者数が見込みより多かったため  今後の方向 ・外国人向けのPR ・関連団体との連携や企画による集客及びPR			
課題・問題点		H29年度事業計画			
・様々なツールを使ってPRを拡大していく必要があること ・地域や学校、関連団体等との連携を深めていくこと		平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について 地域に根ざした歴史の継承を図ることができるよう事業展開を進める。 藤沢の歴史を市民及び国内外に発信していくため、平成29年度については、国際交流フェスティバル等における外国人市民向けPR、また市内の大学の留学生や在学生に周知を進める。 藤澤浮世絵館を拠点として各機関と連携を図り、事業展開する。小中学生等の若年市民層の利用者拡大にあたって、まずは、夏休み期間中に、親子で参加できるワークショップや中学生向けの展示解説の催し等を行い、取組を進める。			

事業コード	事業名	地産地消の充実事業			担当部	教育部	
721					担当課	学校給食課	
事業目的				変更(ある場合)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食に安全・安心な給食食材を提供する。</li> <li>・児童・生徒と生産者との交流等を通し、生産者の苦労や努力を知ること、食料の生産に関わる人々への感謝の心を育てる。</li> </ul>							
事業内容							
学校給食に安全・安心な地元野菜・水産物などの給食食材の使用推進を図り地産地消を充実する。							
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
	藤沢産使用品目及び使用量の拡大						
	33品目						
予算額(千円)	0	0	0				
決算額(千円)	0	0					
執行率(%)	0	0					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH28年度末 の成果	藤沢市内産農水産物 使用品目数 31品目			H28年度の 総合評価	評価	次年度	
					B	継続	
H28年度 進捗状況(今年度の効果・成果)				評価の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢産使用品目の充実 28年度 31品目</li> <li>・藤沢産新米使用量の拡大 平成24年度以降、継続して年5回を使用している。</li> <li>・地場産食材を使用した「かながわ産品学校給食デー」の実施 年3回実施</li> <li>・市内産食材を使用した「ふじさわランチ」の実施 平成26年度より、市内産農水産物を使用した給食を実施している。平成28年度は年3回実施した。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はあるものの、計画通りの事業を行うことができた。</li> </ul>			
				今後の方向			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用品目数の継続に向けて、生産者、市場関係者、学校給食関係者が十分に意見交換を行い、円滑な地場産物使用に向けて検討する必要がある。</li> <li>・生産者の世代交代等により、収穫できる野菜の種類も変化しつつある。新しい献立の研究や、調理方法の検討が必要である。</li> </ul>			
				H29年度事業計画			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内産物の継続な使用と献立企画</li> <li>・地産地消推進モデル校と生産者の交流活動支援</li> <li>・公民館連携事業における、地場野菜をテーマにした子ども料理教室の企画</li> </ul>			
課題・問題点				H29年度事業計画			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜類を指定日に一定量確保することが難しい。</li> <li>・過去の納品実績から献立を立てるが、天候に左右され予定通りにいかない場合が多い。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について</li> <li>・小中学校給食への地場産物の使用拡充、円滑な供給に向け、関係機関・生産者と協議を進める。</li> <li>・「地産地消推進モデル校」の活動において、生産者と学校が交流する企画等を支援する。</li> <li>・「ふじさわランチ」の機会を増やし、地域や地場産物に対する児童生徒の理解を深める。</li> <li>・公民館、学校栄養士・調理員、学校給食課が協働し、地場野菜をテーマに料理教室を開催する。</li> </ul>			

### 3 評価委員会からいただいたご意見及び今後の方向性

#### 1 5 4 教育指導事務事業（学習指導員による補習事業）

##### 【ご意見】

中学生に対して、学習指導員による補習授業を行う取り組みは、生徒達の確かな学力の向上を目指す点において、効果のある事業と考える。

本事業の目的に沿った意識を持つ学習指導員と先生方が連携して取り組んでいる大切な事業だと思う。

日頃の一斉授業では行き届かない個々の生徒のニーズに合わせた支援を行うことができる機会を設定されていることがよくわかった。

学習指導員が数名の学校と十数人の学校では、学習の範囲や質に違いが生じるように思うので、学習指導員の確保はとても重要だと思う。学習指導員を選ぶ過程で校長面接を実施しているとのことだが、学校経営の一つという側面から考えると、多様なニーズに応えられるような指導員の確保を試みていただければと思う。

学習の定着に問題を抱える小学生も対象にすると目指す施策の効果が高まると思うので、可能であるか検討いただきたい。

各校で、授業を受けられる機会に差がないように十分な学習指導員の確保、安定した授業回数をお願いしたい。学習の質をあげるには、教員と指導員の連携など学校全体で取り組む必要があると思う。

成果を上げるためには、日頃の生徒と教師間のコミュニケーションと信頼関係が大切なので、必要とされる支援を的確に行うことができる道筋づくりも含め、学校に指導助言をしていただきたい。

##### 【ご意見を踏まえた今後の方向性】教育指導課

- ・中学校では本事業が定着してきており、引き続き生徒の基礎的・基本的な学力の定着と多様なニーズに応えられるように、教員と学習指導員の連携が図られるよう取り組んでまいります。
- ・学校によって、補習授業の提供機会の差が生じることをないように学習指導員の確保と指導力の向上等に努めてまいります。
- ・小学生を対象としての事業の実施については、今後研究していきたいと考えます。

#### 2 2 5 幼稚園・保育所・小学校・中学校・特別支援学校連携推進事業

##### 【ご意見】

この事業は、非常に多くの取り組みがされていて基本方針に対して、大変意義がある。児童生徒に主体性を持たせて交流をもつことは素晴らしい経験となると思う。

本事業は、目的である小1プロブレムや中1ギャップの解消、子どもの成長を広く見通した教育の推進に寄与していると思う。

本事業は、基本方針に対してとても効果があると思う。子どもが安心して成長すること

のできる学校のネットワークづくりは、幼・保・小・中・特支の広い連携が必要だと思う。

中学校教諭が小学校で授業を行うなどの学びの視点での連携の事例を、より多くの学校が取り入れて実践してみるとよいのではないかと感じた。

交流の深まりや広がりが確実に出てきていることがよくわかったが、中学校区によって温度差を感じる。この事業で最も求められることは、子どもの成長を区切ることなくきめ細かく支援するための連携だと思う。担当者を窓口として、すべての教職員が同じ方向を向いた連携を実践していただきたい。

地域の特性などもあると思うが、教育課程の連続性など、特徴のある学習が継続されることを期待している。子ども同士の交流が地域の活性化にもつながると思うので、子どもたちが実感できる見える取組の工夫を期待する。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】教育指導課

- ・今後も「幼保小中特連携実践事例集」の充実と活用が図られるよう推進することで、学校間のネットワークづくりに取り組んでまいります。
- ・新学習指導要領の実施により、小学校でも外国語の授業が行われることを一つの機会と捉え、更なる小学校と中学校の教職員間の交流や連携、研究を深められるよう努めてまいります。

### 3 3 3 学校施設環境整備事業（空調設備整備）

【ご意見】

小学校・中学校の特性に合わせた優先順位の設定や、地域の問題を踏まえた対象校の選定を行っていることと分かり、問題のない事業の進め方をしていると思う。

本事業は施策の柱である「安全・安心で快適な学校設備の整備」に寄与していると思う。予算規模が大きいので、国の交付金に頼らざるを得ないなど、事業そのものの難しさは理解できるが、子どもたちの学習環境的にはとても看過できない状況と思う。せめて残り小学校 13 校の計画が遅れることのないようお願いしたい。

年々気温が高くなってきているため、エアコンも扇風機もない教室は、学習環境として快適とはいえない時もある。学習への影響も考慮し、他に何か対応できることはないものか。

藤沢市上空の航空騒音が激しく、しばしば授業の進行に支障を来すので、空調設備の整備を優先して進めていただきたい。

窓を開けて授業をしているとのことだが、音や声が聞こえにくいなどの問題はどのように解消しているのか。引き続き、快適な学校空間の整備への取り組みに期待する。

目標値に対して、実施校数が少ないことから自己評価を D としているが、ついた予算で実施できる校数は滞りなく設置できているのであれば、評価はもう少し高くてもよいと思う。このような予算がつかないと実施困難な事業は、年次ごとの目標値を予算が決まった時点で設定してはどうかと思う。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】

〔学校施設課〕

・空調設備の未整備校におきましては、引き続き安全・安心で快適な学校施設の整備に向けて、特定財源の確保に努めながら、取組計画を着実に実施することを目指してまいります。

〔教育総務課〕

・財源確保が必要な事業の自己評価につきましては、年次ごとの目標値の達成だけではなく、実施事業がもたらす教育的効果も加味して評価していくことで、より適正な評価ができるように検討してまいります。

#### 4 2 5 障がい者・高齢者への宅配サービス事業

【ご意見】

本事業は、施策の柱や基本方針と合致した良い事業を行っているとともに、事業内容も目標の実現のために適切であり、成果・効果も適切であると思う。

本事業は、施策の柱に対してとても効果があり、今後ますます重要になる事業だと思う。利用者の人数や年齢層から、必要としている方はまだまだいると思う。若い世代や、子どもたちに対して利用してもらえような周知が必要だと感じた。学校と連携して確実に情報を伝えるなどの方法もあると思う。

宅配ボランティアの高齢化もあることから、新たな世代のボランティアを確保していく必要があると感じた。

職員とボランティアで協力して作成したリストを利用者へ配付するだけでなく、リストを活用して、新たな方に興味を持っていただくこともできるのではないかと。さまざまな年代の人に利用してもらうためには、確実に情報が届くように対象を絞ってPRするなど、さまざまなアプローチを実際にとることで分かることもあると思う。

高齢化が進む中、元気で現役を退かれた方々も増える。生涯学習として読書の楽しみを広げる活動を担う人々を育て、その活動の一つとして図書の宅配サービスを充実していただきたい。

ボランティアがただ本を届けるだけでなく、読書の楽しみのアドバイザーになり、できれば話し相手になり、制限ある生活をしている方々を見守る人として位置付けられるように関係機関と連携を深めていただきたい。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】総合市民図書館

- ・福祉関係機関などと連携し、必要としている方々に適切に情報が届くよう努めます。
- ・宅配サービス利用者に対し図書館資料の紹介を行うなど、引き続き本サービスの利用促進を図ります。
- ・宅配サービス利用希望者に対応できるよう、引き続き宅配ボランティアの確保及び育成を図ります。

#### 4 2 8 新しい時代に即した「これからの図書館」推進事業

##### 【ご意見】

これからの図書館検討委員会を立ち上げ、そこからの報告に基づいて職員による検討を行うという道筋は、大筋では間違いのない進め方をしていると思う。

本事業は、基本方針や施策の柱にある多様な学びのできる生涯学習施設や図書館活動の推進に寄与していると思う。

アクセスに時間を要する地域の方や来館が困難な市民に対するフォロー、日本語を母国語としない方などの多文化に対応する取組など、普段利用していない・できない市民にいかにも活用してもらうかを考えていく必要があると感じた。利用しない人の意見も聴いていただきたいと思う。

利用者に対して、ニーズに合わせた資料をそろえる、読みたい本が揃っていることの周知、子どものためにと利用している方にあわせた企画をするなど、さらに活用してもらう取組も必要だと思う。図書館・図書室が担う機能を大切にしつつ、静かにしなくてもよいスペース、グループ学習などを応援できる場所づくりなど、様々に工夫していただきたい。

南市民図書館再整備においては、情報の電子化に対応したシステム作りと発信の中核を担ってほしい。

アンケート結果に基づき、様々な世代に対応した利用促進が、どのような形として実現されるのかという議論が必要だと思う。その際に、世代による図書館利用の目的の違いを尊重することと、多様な世代と市民が利用できる図書館が共に実現されることを期待する。

検討委員会では、方向性を決めるべきいくつかのポイントがあり、一定の結論があったものと推測されるが、アンケートの知見の生かし方も含めて、今後良い方向に生かしていただきたい。

##### 【ご意見を踏まえた今後の方向性】総合市民図書館

・報告書「藤沢市図書館が市民のためにめざすもの ～5年後・10年後・100年後も受け継がれる図書館に向けて～」で示された基本的な考え方と方向性を参考に、職員による検討会議において、一人ひとりのライフサイクルに合わせたサービス、多文化サービス、障がいのある人へのサービスなどについて具体的な方策を検討し、多様なニーズに即したサービスの実現に向けて取り組んでまいります。また、すべての人が利用しやすい図書館をめざし、居場所づくりなど、どのようなサービスを提供できるのか今回のご意見も含めて検討してまいります。

#### 5 2 9 (仮称) 藤澤浮世絵館の整備・運営事業 (藤澤浮世絵館の運営事業)

##### 【ご意見】

本事業は、施策の柱や基本方針に照らし合わせて大変有意義な事業であるとともに、市民が集い文化の継承につながる生涯学習の場として施策の柱に寄与していると思う。

展示物を頻繁に入れ替え、陳腐化させない工夫がされている。今後も、展示物を入れ替えなどを行いつつ、活発に運営をしていただけたらと思う。

多くの市民が親しめるように無料開放をしていること、市で多くの資料を保有し管理していることは、藤沢市が郷土文化資産を保全・活用していくことの大切さをよくわかっているからだと感じた。

中学生・高校生にぜひ見せてあげたい内容だと思う。

ワークショップや展示などは、もう少し周知に力を入れることによって、より多くの市民が来館するきっかけとなると思う。また、親子利用、学校利用については、各学校でチラシを配付したり、保護者や地域団体などに案内を送ったりするなど、さまざまなツールを使うことで利用拡大につながると思う。外国の方へ利用を促したいとのことだが、アンケートを実施してみるといいのではないかと思った。

市で保有している郷土文化資産、例えば収蔵庫で保管している江の島の貝細工を、貝細工が描かれている浮世絵と一緒に展示するなど、より興味を引く、理解を深めるような活用をしたらよいのではないかと感じた。

階下にあるアートスペースも含め藤沢市の文化芸術を発信し身近なものとするスペースとしての存在感を最大限出してほしい。案内、看板、メディアなど、まだまだかなり積極的になれる余地があると思う。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】郷土歴史課

- ・今後とも、市民の郷土への愛着を育むとともに、市民の文化の向上に寄与するため、創意工夫をしながら企画運営を行います。
- ・市民を始め、より多く幅広い年齢層の方に来館いただけるよう積極的にPR活動を進め、様々な媒体を通じて幅広く情報提供を行ってまいります。
- ・藤沢の文化の発信拠点として、アートスペースやふじさわ宿交流館を始めとして、様々な関係機関と連携を図りながら事業展開し、文化の向上に努めてまいります。

## 7 2 1 地産地消の充実事業

【ご意見】

本事業は、学校と地域の連携において、良い観点からの取り組みであると思う。このような取組を通して、子どもたちの地域への愛着を育てることができると良いと思う。多くの品目を取り入れることで、安心してより身近な地場産の食材を食べることができることや、地元の生産者との交流を深めることによって食の知識・健康について考えること、生産者に対する感謝、生産に関するキャリア教育など、子どもたちの教育に幅広い効果が期待できると思う。

指定された日に指定された量の食材を確保するのが難しいとのことだが、必要な食料が必要なおきに手に入らないということは、現代人にはなかなか想像のつかないことと考え、それをありのままに伝えることも子どもたちにとって一つの勉強になると思う。

地産地消推進モデル校である御所見小学校の活動を支援するとともに、モデル校を参考として、各校に交流を広げていただきたいと思います。

「ふじさわランチ」では、生産者の方と一緒に野菜の作付けから行なっていることを知り、また、藤沢市産の農水産物の確保などが難しいことも分かった。地産地消を実現するための取り組みやプロセスの難しさなどを子どもたちに話してみることも、食育の一貫として行なってもいいのではないかと思った。

食材の確保が難しい場合は、特別に「ふじさわランチ」とせず、その都度、今日の食材のは藤沢産ですとアナウンスし続けることにより、地場産食物に対する知識や関心を定着させることができると思う。

地場産物・生産者との交流に結び付けることが、地域によっては難しいと思うので、地域の特性にそった工夫をすることで児童生徒の理解を深めてほしい。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】学校給食課

- ・学校と地域の連携、地域への愛着を育むため、引き続き安全安心で身近な地場産物を学校給食に使用拡大するよう努めます。
- ・「地産地消推進モデル校」の活動を支援し、生産者と児童の交流の機会を増やしてまいります。また、各学校において、その地域の特性に応じた活動を広げられるよう努めてまいります。
- ・「ふじさわランチ」はもとより、日常の給食においても、給食だよりなどを活用して、その都度使用した地場産物の紹介を行い、地産地消に対する児童生徒の理解・関心を深めてまいります。